

専門分野

母性看護学

授業科目	母性看護学 概論	開講年次	単位	時間	必修	担当責任者	授業科目	母性看護学 援助論 I	開講年次	単位	時間	必修	担当責任者		
		2年次	1	30		佐藤 愛美			2年次	1	15		佐藤 愛美		
学習目標	1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる。 2. セクシュアリティの意義について理解し、看護の役割について考えることができる。 3. 母性のライフサイクル各期の特徴について理解できる。 4. 母性及び父性の発達について学び、母性機能の維持向上に向けた看護の機能と役割を理解する。 5. 母性看護の対象を取り巻く現状について理解し、課題について理解することができる。						学習目標	1. 母性のライフサイクル各期の健康と看護の役割について理解できる。 2. リプロダクティブヘルスにおける看護実践について考え、看護の役割について理解することができる。							
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験
1	I. 母性看護の基盤となる概念 1. 母性とは					講義	佐藤 愛美 教員 実務経験:有	1	I. ライフサイクル各期における看護					講義	佐藤 愛美 教員 実務経験:有
2	2. 母子関係と家族発達							2	1. 思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の特徴と看護						
3	3. セクシュアリティ							3	※各グループに分かれて、調べ学習後、発表会を通して学びを共有						
4	4. リプロダクティブヘルス/ライツ							4	II. リプロダクティブヘルスにおける看護の実際						
5	5. 母性看護のあり方							5	1. 家族計画と看護 2. 性感染症とその予防 ※高校生への性教育についてグループワークし、発表しあい、学びを深める						
6	II. 母性看護の対象理解							6	3. 周産期のメンタルヘルス						
7	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化							7	※紙面事例を通して、産後のメンタルヘルス支援について考える						
8	2. 身体的、心理・社会的特徴							8	4. 不妊治療と看護						
9	3. 女性のライフサイクルとライフステージとその特徴							9	5. 周産期の死に対する看護						
10	III. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状							10	試験						
11	1. 母性看護学の歴史の変遷と現状							11							
12	①母性看護の変遷							12							
13	②母性に関わる指標と推移							13							
14	③母性看護にかかわる法律							14							
15	④母性看護にかかわる施策							15							
16	2. 母性看護の提供システム														
17	①母性看護にかかわる機関														
18	②母性看護に携わる職種														
19	3) 出産・育児にかかわる母子保健施策・法律の実際					グループワーク									
20	※2例の紙面事例を活用し、産後の子育てを地域で支援するために必要な看護の役割について考える														
21	※在日外国人への支援についても含む														
22	IV. 母性看護と倫理					グループワーク									
23	※紙面事例を通し、女性の選択と意思決定における支援について考える														
24	試験														
テキスト	1. 母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院 2. 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 3. 国民衛生の動向						テキスト	1. 母性看護学(1) 看護学概論 2. 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 3. 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社							
評価方法	試験						評価方法	試験 5割 レポート 5割							
先修条件	なし						先修条件	なし							

専門分野

母性看護学

授業科目	母性看護学 援助論Ⅱ	開講年次	単位	時間	必修	担当責任者	授業科目	母性看護学 援助論演習	開講年次	単位	時間	必修	担当責任者			
		2年次	1	30		佐藤 愛美			2年次	1	30		佐藤 愛美			
学習目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を正常に経過するための看護について理解する。 2. ハイリスクにある妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について理解する。						学習目標	1. ウェルネス看護診断過程を活用して、母性看護の対象のニーズに応じた必要な看護について考えることができる。 2. 看護の実践を通して、母性看護の対象特性に応じた関わりについて考えることができ、母子を尊重した態度について理解することができる。 3. 母性看護技術の特性を理解し、安全に適用することができる。								
回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	回数	授業計画・授業内容					授業方法	講師/実務経験	
1	正常に妊娠期を経過するための看護①					講義	松岡春菜 帯広厚生病院 助産師 実務経験:有 【試験配点】 30点	1	Ⅰ. 母性看護の対象特性と看護過程					講義 グループワーク	佐藤 愛美 教員 実務経験:有	
2	正常に妊娠期を経過するための看護②							2	Ⅱ. ウェルネス看護診断の展開① 1. 妊娠期 1) アセスメント ※事前配布している紙上事例について、各自アセスメントしてきた上で、看護の方向性についてグループワーク							
3	正常に妊娠期を経過するための看護③															
4	ハイリスクにある妊婦の看護①															
5	正常に分娩期を経過するための看護①					講義	上野有佳里 帯広厚生病院 助産師 実務経験:有 【試験配点】 30点	3	2) 看護の実際 ※アセスメントをもとに、妊娠期の保健指導場面の関わりについてグループワーク					グループワーク		
6	正常に分娩期を経過するための看護②							4								
7	正常に分娩期を経過するための看護③							5 6 7	Ⅲ. 母性看護技術演習 1. 妊娠期の看護技術 2. 産褥期の看護技術 3. 新生児期の看護技術							技術演習
8	ハイリスクにある産婦の看護①															
9	正常に産褥期を経過するための看護①					講義	秦くみ子 帯広厚生病院 助産師 実務経験:有 【試験配点】 40点	8	Ⅳ. ウェルネス看護診断の展開②					演習		
10	正常に産褥期を経過するための看護②							9	1. 産褥期の看護過程 ※アセスメント・看護診断・看護目標・看護計画立案まで							
11	正常に産褥期を経過するための看護③							10								
12	ハイリスクにある褥婦の看護①							11								
13	正常な新生児期を経過するための看護							12	2. 新生児のアセスメント							
14	ハイリスクにある新生児の看護①							13								
15	試験							14	3. 看護の実際 ※産褥4日目の沐浴指導について演習							シミュレーション
15							15									
テキスト	1. 母性看護 [2] 母性看護学各論 医学書院 2. 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社						テキスト	1. 母性看護学(1) 看護学概論 2. 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院 3. 周産期の看護技術 医歯薬出版株式会社								
評価方法	試験 (妊娠期3割 分娩期3割 産褥期・新生児期4割)						評価方法	取り組み5割 レポート5割								
先修条件	なし						先修条件	なし								